

令和 4 年 4 月 15 日

(※受付番号 )

教 育 長 様

研究コース
グループ研究 A
校園コード (代表者校園の市費コード)
671480

代表者	校 園 名 :	大阪市立北鶴橋小学校
	校園長名 :	光井 栄雄
	電 話 :	06-6741-6706
	事務職員名 :	服部 朋美
申請者	校 園 名 :	大阪市立北鶴橋小学校
	職名・名前 :	校長・光井 栄雄
	電 話 :	06-6741-6706

## 令和 4 年度 「がんばる先生支援」研究支援 申請書

◇本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース	コース名	グループ研究 A	研究年数	継続研究 (2 年目)
2	研究テーマ	GIGA School構想を生かしたCollaborative learning ～ 新しい生活様式の中での主体的・対話的で深い学びの実現 ～			
3	研究目的	<p>テーマに合致した目的を端的に記載してください。</p> <p>○新しい生活様式の中での授業デザイン力の育成 ○ICT機器を有効活用した新しい生活様式の中での主体的・対話的で深い学びのあり方について研究する。 ○ICT機器の活用実技研修を定期的に行い、個々の活用スキルを高める。 ○上期のICT機器の活用研修について、接続中学校区小学校を中心に他校の教員のオンラインでの参加を受け入れ、小中連携を深めるとともに、大阪市全体に広げる。 ○年 6 回のGIGA School構想に鑑みた授業研究会を行う。 ○実践事例集をSwayを使って定期的に更新し、取り組みを大阪市全体に広げる。 ○先駆的な取り組みについてのオンライン講演会を企画・運営し、大阪市全体に拡大する。 ○取り組みを通して、児童のICT機器を活用したコミュニケーション能力の育成を図る。</p>			
4	研究内容	<p>継続研究は、前年度の成果と課題を分析した内容を踏まえて記載してください。</p> <p>AIの発達により、情報社会 (Society4.0) からIoTですべての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値観を生み出すことで課題や困難を解決する社会 (Society5.0) へと急激に変化している中、新学習指導要領ではCollaboration (協働) する力の育成、「主体的・対話的で深い学び」を展開した授業デザインが重要視されている。そんな中、新型コロナウイルス感染症の世界的大流行という新たな困難が立ちはだかり、今まででは考えられなかった状況の打開が必要とされている。こういった変化に対応する力こそ本来、児童に育むべき力であり、今ある新しい生活様式の中でGIGA School構想を生かしてタブレット端末を中心にICT機器を有効活用したcollaborate learning (協働学習) の授業デザインしていくことが今日的課題としてとらえ、実践研究を行い、実践事例集を提示することで大阪市の教育の先駆的な役割を果たしたいと考えて昨年度研究に取り組んできた。</p> <p>研究の成果として、本校の教員・児童の活用スキルは大幅に上昇し、年度末には先進的な取り組みを行っているモデル校としてMicrosoft本社よりMicrosoft Showcase Schoolに認定 (3 月現在全国で 6 校、公立学校としては唯一) された。課題としてあがったのは小中連携であると考え、本年度は小中連携も意識した研修会も実施していきたい。これらの実践をもとに、以下のようなオンライン研修会の開催と実践報告を行う。</p> <p>① TEAMSを有効活用した実践に向けてのオンライン実技研修会の開催 接続中学校区と連携した実技研修会の開催</p> <p>② 低学年部・中学年部・高学年部と発達段階に分けたグループをくみ、それぞれの課題やニーズに応じた実践に直結するミニ研修を不定期で行い活用スキルを高める。</p> <p>③ 授業研究会を中心としながら、日々の実践をPDCAサイクルに乗っ取り、実践事例集としてまとめることにより、実践を深め、広げることでICT活用スキルと授業デザイン力の向上につなげる。</p> <p>④ ①～③について、Teamsの教職員チームを活用してオンデマンド形式でも共有し、いつでも個々にふりかえることができるようにする。</p>			

5	活動計画	<p>日程や内容など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。</p> <p>4月 昨年の研究の成果と課題をもとに本年度の研究活動について検討する。 課題解決に向けた研究授業の計画を立てる。</p> <p>5月 ICT機器活用研修（研修プログラムの作成） 児童アンケート（事前アンケート） 第1回ICT活用実技研修会（Microsoft Whiteboardの活用）</p> <p>6月 学年別ICT活用研修 第1回授業研究会・研究討議会 第2回ICT活用実技研修会（Microsoft Formsを活用した小テストづくり等）</p> <p>7月 第2回授業研究会・研究討議会</p> <p>8月 ICT活用夏季研修会（兼オンライン公開研修会）</p> <p>9月 第3回ICT活用実技研修会（Microsoft Teamsの活用例①）</p> <p>10月 学年別ICT活用研修 第3回授業研究会・研究討議会 第4回ICT活用実技研修会（Microsoft Teamsの活用例②）</p> <p>11月 第4回授業研究会・研究討議会 第5回ICT活用実技研修会（Microsoft Teamsの活用例③）</p> <p>12月 第5回授業研究会・研究討議会 ICT活用研修会（兼オンライン公開研修会） オンライン公開講演会の実施 第6回ICT活用実技研修会（Microsoft Swayを使ったデジタルリーフレットづくり）</p> <p>1月 第6回授業研究会・研究討議会</p> <p>2月 立命館小学校の公開授業研究会の参加と校内伝達研修 活用事例集の作成 TEAMSによるオンライン研究発表会（事例報告と講演会） 児童アンケートの実施（事後アンケート）</p>
6	見込まれる成果とその検証方法	<p>大阪市教育振興基本計画に示されている、<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u>および<u>教員の資質や指導力の向上</u>について、見込まれる成果を端的に記載し、その成果について、客観的な指標により必ず数値で示すことができる検証方法を記載してください。</p> <p>【見込まれる成果1】 ○GIGA School構想実現に向けた教員のICT活用スキルが向上し、授業において効果的に活用した授業デザインができる。</p> <p>《検証方法》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認定資格 MIE(Microsoft Innovative Educator)の8割以上の習得</li> <li>・認定資格 MIEE(Microsoft Innovative Educator Expert)の2名以上の増加認定</li> <li>・Microsoft Showcase Schoolの継続認定</li> </ul> <p>【見込まれる成果2】 ○児童のICT活用スキルが高まり、新しい生活様式の中でも効果的に活用しながら積極的に「主体的・対話的で深い学び」を展開することができる。</p> <p>《検証方法》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケートにおいて「タブレット端末を使った学習は楽しいですか。」という質問に対し肯定的な回答を行う児童の割合を9割以上にする。</li> </ul> <p>【見込まれる成果3】 ○教職員のICT機器を有効活用した授業デザイン力を高めることにより、GIGA School構想に挙げられた児童のICT活用スキルを高めることができる。</p> <p>《検証方法》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケートにおける「タブレットを使って資料を作ったり、自分の考えを伝えたりできますか」という質問に対する肯定的な回答の割合を8割以上にする。</li> </ul>

6	見込まれる成果とその検証方法	<p>【見込まれる成果 4】</p> <p>○実践事例集を作成することで、教職員のICT機器を活用した授業実践力、授業デザイン力を高めることができる。</p> <p>《検証方法》</p> <p>・職員アンケートにより「研究を通して、ICTを活用した授業デザインスキルが高まったと思いますか」という発問に対し、肯定的な回答の割合を9割以上にする。</p> <p>【見込まれる成果 5】</p> <p>○実技研修等を接続中学校区に公開することでR8年度に予定されている統合を意識した実践とすることができるだけでなく、学校との連携を図りながら6か年だけでなく義務教育の9年を通じた実践に向かう取り組みとすることができる。</p> <p>《検証方法》</p> <p>・公開実技研修に参加した接続中学校区の先生のアンケートにおける「研修を日々の実践に生かしていこうと思いますか」の設問に対する肯定的な回答をする割合を8割以上にする。</p>				
7	研究成果の共有方法	<p>◆研究発表【必須】 報告書提出日（令和5年2月24日）までに必ず行ってください。</p> <p>○研究発表の日程・場所（予定）</p> <table border="1" data-bbox="405 969 1463 1043"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 5 年 2 月 8 日</td> <td>場所</td> <td>オンライン（TEAMS）</td> </tr> </table> <p>◆代表校園HPでの共有【必須】</p> <p>他の共有方法を計画している場合は記載してください。</p> <p>実践事例をGIGA school実践として公開 実践事例をSwayを活用して、随時アップグレード公開</p>	日程	令和 5 年 2 月 8 日	場所	オンライン（TEAMS）
日程	令和 5 年 2 月 8 日	場所	オンライン（TEAMS）			
8	代表校園長のコメント	<p>本校では令和4年度の研究課題も昨年度に引き続き「タブレット端末を有効活用した授業づくり」としている。昨年度1年間の実践により個々の学年での活用は広がり、年度末には系統立てた学習計画案を作成することができた。教職員の活用に対する意欲が高まっている。そういった状況を踏まえ、今年度は系統だてた学習計画を意識しながら研究を深めることにより、一人一台タブレットの実践において先駆的な実践を行っていくことができると考えられ、また、研究成果としての実践事例集もSwayを活用し、Web資料化することによって、随時更新したものを提示できるようになり、より実用的なものにできると考える。</p> <p>また、本校では昨年度末にMicrosoft本社よりMicrosoft Showcase Schoolの認定を受け、日本マイクロソフト社よりの支援を受けながらの研修を行うことができるようになったことを生かし、さらにTEAMS等を有効活用した授業デザイン力の向上について他校から参加される教職員にも広げることができると思われる。</p> <p>以上のことから、本研究は、本校教職員の授業力向上はもちろんのこと、大阪市の教育力の向上にも十分に価値があるものだと考える。</p>				